

大阪医科大学学報

第91号 平成24年2月
(インターネット版)



水仙・寒木瓜（ぼけ）の花

◆目

受賞等について.....	2
研究助成金等について.....	3
看護学部.....	4
中山国際医学医療交流センター.....	5
病院看護部.....	8
病院薬剤部.....	9
医学会秋季学術講演会・学内行事.....	10
看護専門学校.....	13
市民公開講座.....	14

◆次◆

行事日程.....	15
寄付金報告.....	16
主要会議報告.....	18
褥瘡対策室.....	22
キャリア形成支援センター.....	23
医療安全対策室.....	26
感染対策室.....	27
大学安全対策室・俳句.....	28
LDセンター.....	29

受賞等について

受賞等について

第8回日本中性子捕捉療法学会学術大会
ベストプレゼンテーション賞（臨床研究の部）受賞
脳神経外科学教室 平松 亮 助教

平成23年9月16日～17日、徳島県徳島市にて開催された第8回日本中性子捕捉療法学会学術大会にて、ベストプレゼンテーション賞（臨床研究の部）を受賞されました。

発表名:「新規ホウ素化ポルフィリン化合物の臨床応用：dual sensitizer for both BNCT and PDT」



独立行政法人 日本学生生活支援機構

平成23年度優秀学生顕彰 社会貢献分野 大賞受賞 医学部医学科 5年生 岸森 健文 さん

平成23年12月10日、東京都アルカディア市ヶ谷にて平成23年度優秀学生顕彰表彰式が開催され、竹中学長臨席のもと、大賞の表彰を受けました。

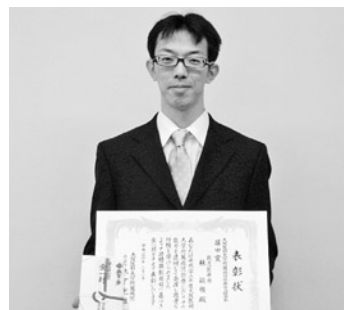
※独立行政法人 日本学生生活支援機構 平成23年度優秀学生顕彰 <http://www.jasso.go.jp/kensyo/h23kekka.html>



平成23年度 大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰

平成23年度の藤田賞の授賞が、救急医療部・林 敏雅助教（准）に決定し、平成24年2月1日(水)の診療科長会にて授賞式が行われました。

平成24年度の顕彰については、本年の秋頃に募集を予定しております。



平成22年度 病院経営改善委員会インセンティブ表彰

平成23年11月9日(水)、本館・図書館棟4階 第1会議室において、平成22年度に病院の経営改善に貢献された診療科及び看護部に対しインセンティブ表彰が行われました。

今回対象となった診療科15科と看護部に対して、植木理事長から表彰状と記念品の授与が行われました。

※ 表彰対象診療科（15科）は以下のとおりです。

一般小児科、泌尿器科、呼吸器外科、心臓血管外科、眼科、神経内科、血液内科、脳神経外科、消化器外科、呼吸器内科、膠原病内科、麻酔科、糖尿病代謝・内分泌内科、産科・内分泌科、形成外科



研究助成金等について

■第8回（平成24年度） リリー研究助成プログラム（骨領域研究）[財団法人骨粗鬆症財団] —————

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
小児二次性骨粗鬆症治療における骨密度および栄養評価に関する研究	瀧谷 公隆（小児科学・講師（准））	80万円

■平成23年度 若手癌研究助成 [財団法人安田記念医学財団] —————

研究課題名	氏名（所属名・職名）	助成金額
DNA損傷マーカーを用いた新規抗がん作用剤 α -mangostinの作用機序の解明および成体影響の評価	中村 麻子（解剖学・講師）	100万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

■看護実践研究センター活動報告

看護学部は学部開設2年目となりました。開設とともに活動を開始している看護実践研究センターは、看護実践、研究支援と共に地域住民との交流・地域貢献も目標としています。センターの23年度事業の一つとして「認知症を理解し、互いに支え合おう—認知症サポーター養成講座—」を実施したので報告します。事業は、高槻市高齢福祉課を通し市の後援を得た看護学部の主催として、平成23年11月5日(土)看護学部講堂で開催しました。案内を「広報たかつき9月25日号」に掲載した直後から電話申し込みが始まり、一般募集100名枠に対し1週間で7割程に達し、また、「病院の掲示を見ました」との申し込みもあり人々の認知症への関心の高さを感じました。当日の参加者は、一般募集と老年看護学履修学生と教職員の199名でした。一般参加者の年齢内訳は30~70代まで万遍なく受講されました。

認知症は、「健やかに老い、住み慣れた地域で生活し続けたい」と願う普通の暮らしを阻む健康障がいです。しかし、一般の人々が持つ認知症



に対する情報には偏りがあります。そこで、「認知症ってどんな病気？」では、前田環 看護学部病理学教授より脳組織における神経細胞が示す変化を通して、認知症の病理を解り易く伝えていただきました。

次に、高槻市北地域包括支援センター野角氏には「認知症サポーター養成講座」をご担当いただきました。最後に「高槻市の認知症の人と家族を支える会」のご家族から「知って欲しい、家族の気持ち」をお話いただき、認知症を知って欲しい、病院に行っても家族はトイレにも行けない等、認知症者の傍を離れる事ができない現実、また小さな事と思わずに

少しでも家族の力になって欲しいと言う切実な願いが伝わりました。

養成講座の中では「あれ？」と認知に疑問を感じるような高齢者に会った時にどのような対応をしたら良いかの場面について、受講者も参加してロールプレイを行いました。実施後の意見交換では「一緒に警察に行ったら良いだろうか」「もっと具体的な対応を知りたい」「~はどうですか？」と具体的な対応策の質問が出たり、会場からの熱意ある反応がありました。

受講後アンケートでは、「解りやすい構成であった」「地域で支えることの必要がわかった」、また、病院勤務者からは「認知症の方が退院される時に、本人や家族が安心して自宅に帰ることが出来るよう地域との連携が必要だと感じた」等の感想が寄せられました。また、受講学生は、「変だなと感じた高齢者に会った時、どうしたのかな？と関心を持つようになった」「認知症の祖父の話をよく聴くようになった」等、高齢者や認知症への関心が高まっています。認知症



サポーター養成講座は、広く一般市民に「認知症を学び地域で支えよう」を目指した全国キャラバン・メイト事業です。地味でささやかな事業ですが、学生・教職員も一市民として参加し、認知症の人とその家族を地域で支えることの意味は大きいと思います。



看護実践研究センター委員
看護学部 教授 小林 貴子 (老年看護学領域担当)

■ University of Texas Medical Branch (UTMB) での生活

中央検査部 助教 朝井 章

留学が3年8ヶ月の長さになるとは思いもせず、2008年初旬僕はアメリカに旅立ちました。英語が出来ないままアメリカに留学するという暴挙に出してしまったため、アメリカでのcommunication skillは幼稚園児以下、買い物に行っても注文できず、トイレに行きたくても単語のみ、当然何一つまともなことも出来ず買い物もどうやっていいかわからない状態でした。そんな状態でよく生きてこられたなと今から考えるとと思います。アパートを借り、車を買、小切手を作り、生活を立ち上げることができたのは本当に 留学先のBossである鈴木富士夫先生のおかげだと思っています。

そのような毎日のなか、誰とも話をしない日々が続くとさすがにこれはまずいと思い、英語を勉強すべくESLのクラスに通うことにしました。ESL (English as a Second Language) というのは英語を母国語としない人達が英語を第二の言語として学習する場所のことです。そこでも僕は一番の落ちこぼれであり、あまりにも話が出来ないため身振り手振りが会話手段でした(あまりにも多いため途中で先生に身振り手振り禁止令が出されました)。またそんな状態でもなんとか世界各国から来た友達が出来たものです。我が家でのホームパーティーに各人自分の国の料理を持ち合い食べてみたり、みんなで飲んだりと言葉がなくてもなんとかやっていけるものだなと思いました。

実際の仕事に関してですが、留学後マクロファージにTargetを絞り、行うことに致しました。マクロファージといっても様々な種類があり、また各臓器においてもそれぞれ役割が違うためとても奥深いものでした。具体的には留学先のUTMB内にShriner Hospitals for Childrenという病院があるため、火傷に関する研究がすすんでいることもあり、僕は火傷マウスを使用した免疫不全におけるマクロファージの違いについて詳しく調べることにしました。マクロファージの一種が感染に対する初期免疫において非常に大切であり、火傷マウスではそのマクロファージが存在しないこと、またそれ以外のタイプのマクロファージが火傷マウスでは優位に存在することが易感染の原因であることを証明しました。さらに遺伝子治療を行い、その結果マクロファージのタイプを変えることにより火傷マウスにおいて感染抵抗性を導くことが出来ることを証明しました。その結果UTMBで論文も数件作ることができましたし、さらにはFellowshipも獲得できました。

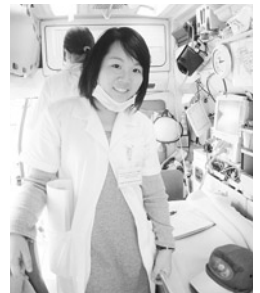
結局英語はほとんど話せるようになりませんが、でもアメリカに留学した経験は僕の人生の中で何物にも代え難いものであり、今後の僕の人生を支えてくれるものになったと思います。本当にアメリカに留学させていただいて、ありがたく思っています。



■ タイ・マヒドン大学学生のPrince Mahidol Award 受賞について

中山国際医学医療交流センター センター長 河野 公一

この度、本学の臨床実習プログラムに2010年1月に参加したタイ・マヒドン大学のMiss Jidapa Wongcharoenwatanaが2011年8月5日にマヒドン大学及びタイ外務省よりPrince Mahidol Awardを受賞しました。受賞の対象となった研究は“The Mechanical Axis Evaluation for the Management of Osteoarthritis of the Knee”で、本学での実習及び本学で開催した国際シンポジウムへの参加が受賞の一助になったとの謝意表明がありました。本学の留学プログラムに参加した優秀な学生が医学界に貢献する活躍をしているのを見る事は大きな喜びです。これからも国際医学貢献の一貫の礎となるべく留学プログラムを充実させて行きたいと思っています。



高槻市消防署で救急車内を見学しているJidapaさん

■アムール医科アカデミーでのカンファレンスへの録画参加について

中山国際医学医療交流センター センター長 河野 公一

毎年恒例となっているアムール医科アカデミー 学生科学カンファレンス (第21回) に、今年度も本学よりDVDによる録画という形で参加しました。

今回は4年生の長谷川幸世さんと2年生の後藤祐子さんが参加し、長谷川さんは「Kimono」というタイトルで着物の今昔、後藤さんは「Japanese Food」というタイトルで本学で受け入れたロシア・アムール医科アカデミーの学生に人気のあったクリームパフェの紹介などを英語で発表しました。それぞれの発表はとてもわかりやすく構成されていてロシアの学生達に大変好評であったとのメールがカンファレンスの写真とともに送られてきました。

参加ご協力いただいた学生諸君にあらためて感謝申し上げます。



プレゼンテーションを英語で行う長谷川幸世さん



■大阪医科大学 教育センターレクチャーシリーズ18について

教育センター 宮本 学

大阪医科大学教育センターと中山国際医学医療交流センターの共催で、大阪医科大学教育センターレクチャーシリーズ18が「Teaching Communication Skills by Means of Patient Presentations (身体診察後のプレゼンテーションを通してのコミュニケーションスキルトレーニング)」をテーマとして、平成23年11月7日(月)午後5時～6時30分に第2講義室において行われました。

ハワイ大学医学部から Doric Little 先生 (Ed.D. The University of Hawaii Associate Professor, Internal Medicine, JABSOM) を講師として迎えました。

午前中に中山国際医学医療交流センターにてDoric Little先生にVisiting Professorの称号の授与が行われ、ひきつづき、花房俊昭教育機構長が病院を、河野公一中山国際医学医療交流センター長が学内を案内しました。



講演には両氏をはじめ、米田博教育センター長の司会のもとで、多数の教員、学生、レジデントと43名もの参加を得ました。Doric Little先生は、ハワイクアキニ病院で15年以上にわたり海外からの学生、インターン、レジデントを受け入れ、身体診察後のプレゼンテーションを通してのコミュニケーションスキルトレーニングを教えておられます。本学の多くの学生もクアキニ病院へ臨床実習のために派遣された際、大変お世話になりました。症例プレゼンテーションで日本人が苦手とする発音について分かりやすい解説の後、クアキニ病院で研修を終えた教え子である6年生の浜畑好昌君のプレゼンテーションに真ん前で一言ずつ言葉を直していく姿には、学生に対する教育の情熱と優しさが感じられました。

浜畑君のプレゼンテーションは、さすがと言わんばかりの発表でした。映像のみですが、他の2人の日系研修医の発表を直していく風景も素晴らしく、その発表はハワイで大きな賞をとったそうです。講演終了後も、参加した学生や研修医はいつまでも名残を惜しんでいました。「2年後は、リトル先生のもとでトレーニングできるように、今やるべき勉強や英語に力を入れていきたい」との学生の感想もありました。

■インド・タミルナドゥ州におけるフッ素症予防JICAプロジェクトについて

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

インドでは人口急増による上水道整備の遅れが地下水依存を招き、地下水のフッ素汚染による歯、骨、内臓、胎児などへのフッ素症被害が深刻化しています。フッ素症被害者はインド全体で6,600万人に上り、そのためインド政府は「国家フッ素症対策プログラム」を掲げ全国民への十分かつ安全な飲料水の供給を提唱しています。

特にインド南部に位置するタミルナドゥ州は、水不足が深刻であり、またデカン高原を形成する岩盤はフッ素を多く含むため、地下水が高濃度に汚染されている被害の著しい地域です。そのため日本国政府は2008年3月、円借款（394億8,200万円）として同州北西部地区において「ホゲナカル上水道整備・フッ素症対策事業」を決定しました。

本事業の実施主体であるJICAを通じて、日本側アドバイザーの河野は、中山国際医学医療交流センターを窓口として同プログラムの展開に協力することになりました。

そこで昨年11月に本学の専門家を中心とするチームによる現地視察を行い、同事業コンポーネントの進捗状況の確認と今後の提言を行いました。

さらに2012年度からは、フッ素症被害がより深刻なインド北部ラジャスタン州におけるJICAプロジェクトにもアドバイス要請を受けています。



現地の水道局の方々と



学校の給食室

インド政府



第11次5ヵ年計画 「国家フッ素症対策プログラム」 (2007年4月～2012年3月)

日本政府



インド向け円借款 ODA 

ホゲナカル上水道整備・フッ素症対策事業 (2008年3月～2017年7月)

メディカルアプローチ
検査技師・医師・
ヘルスワーカーのトレーニング
栄養ブックレットの作成
検査設備の導入
診断方法の確立

スクールアプローチ
教師のトレーニング
学校水栓の状況調査
栄養指導、広報活動
就学児童のフッ素症調査

コミュニティアプローチ
コミュニティ水栓の状況調査
栄養指導
広報活動
ベースラインサーベイランス

大阪医科大学によるJICAプロジェクト

河野公一、島原政司、宮本学、清水宏泰、藤本圭一、森本真佐子、堀内俊孝(北里総研)
植野高章、臼田寛、木村吉宏、河野令、三井剛

第1回現地調査 (2008年4月1日～3日)

第2回現地調査 (2011年11月20日～12月6日)

*** 患者様とご家族、そしてスタッフのメンタルサポートに向けて ***

61病棟 リエゾン精神看護専門看護師 宮田 郁

「Hさん、合格しました…ずっと支えていただいてありがとうございました。」

12月12日、専門看護師認定審査の合格発表の画面を見ながら、そうつぶやきました。私が看護師になって2年目にHさんと出会いました。膀胱がんの終末期、腹水による呼吸困難と疼痛コントロール不良で緊急入院となったHさんは、看護師経験の浅い私にも信頼を寄せて下さっていました。しかし、入院から1ヶ月ほどしてHさんは抑うつ状態になり、関わりに戸惑った私はHさんと距離をおいてしまい、そのことが看取りの場で一気に後悔へと変わりました。「あんなに信頼してもらっていたのに、肝心な時に向き合えなかった…」という思いが、迷わずリエゾン精神看護専門看護師を目指す決意をさせてくれました。その日から7年、ようやくその思いが実を結ぶことができたのです。

“リエゾン精神看護専門看護師（リエゾンナース）”は、精神看護専門看護師のサブスペシャリティであり、精神疾患を有する患者様だけでなく、Hさんのように身体疾患を有する患者様がうつ状態や不安が強くなるというような、精神的な側面に問題を呈した際にそのサポートをする役割を持っています。リエゾン(Liaison)はフランス語で“連携”や“つなぐ”という意味があり心と体をつなぐ、患者様やそのご家族と医療従事者間の心をつなぐことで、質の高いケアを提供することがその言葉に含められています。

本院には既に慢性疾患看護専門看護師、がん看護専門看護師がおり、専門看護師がどのような存在かということについては既知のことかと思いますが、少しご説明いたします。専門看護師は看護師免許取得後、5年の臨床経験（専門分野3年）が必要で、看護系大学大学院修士課程（専門看護師コース）を修了した後、6ヵ月以上の実務研修を経て、専門看護師認定審査にて認定されます。その役割は、直接ケア、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、研究、教育という6つがあります。リエゾン精神看護専門看護師に特徴的な役割として医療従事者のメンタルサポートが挙げられます。リエゾンという言葉の意味でもありますが、対象とする疾患が多岐に渡ることで、コーディネーションという役割を有することからも、様々な領域、様々な職種の方々との協働が基本になります。特に本院には、専門看護師だけではなく、多くの認定看護師がおり、その専門性を活かしながら協働できる大きな強みがあるのではないかと考えております。

4月に臨床現場に戻って、精神科病棟に所属しながら週に2日の専門看護師活動をしてようやく10ヶ月を迎えようとしています。「リエゾン精神看護専門看護師って何？どんなことをしてくれるの？」という状況の中で、且つ、まだ専門看護師の認定もされていない状態の私を様々な病棟のスタッフをはじめとして、様々な職種の皆様に活用していただきました。専門看護師の認定審査には実績報告書が10症例程度必要となるため、活動できなければ認定審査を受けることすらできなくなります。従って、この度の認定審査に挑戦し、合格することができたのは、未熟な私を活用して下さった方々、活動に理解を示して全面的に協力していただいた精神科病棟の方々、そして看護部・病院のサポートがあったからこそではないかと思えます。加えて、ここまで私の気持ちを支えていただいたのは、Hさんをはじめとする多くの患者様やそのご家族だったと実感しています。

今、ようやく専門看護師としてのスタートラインに立つことができました。専門看護師としての役割をしっかりと担っていくことが、これまで支えて下さった方々にできる唯一のお返しだと思っております。まだまだ未熟者ではありますが、時には厳しい指導をいただき、時には温かく見守っていただければ…と思っております。チーム医療の中で看護の専門性を発揮できるよう努力したいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。



*** 男性看護師委員会を発足して ***

救急外来／主任 住 良太郎 ICU 尾沢 信貴 62病棟 宮本 陽介
中央手術室 藤澤 和夫 62病棟 藤原 大樹（協力員）

当院の男性看護師は29名であり、まだまだ少ない状況です。男性看護師間での連携と、院内でのリーダーシップを図ることを目的に男性看護師会を設立し、3年目を迎えました。社会的背景として全国的に男性看護師の数は年々増加しており、当院においても現在は内科病棟も含め、様々な領域での活躍ができるようになりました。以前のような救急外来や中央手術室など、限られた配属先での勤務ではなく、活躍の場を広げるために院内のみならず地域社会への貢献にも目を向けています。



今年度におきましては、東日本大震災の復興支援として岩手県へ災害支援ナースの派遣、1月22日に開催された高槻シティーマラソンへの協力、大阪府看護協会の男性看護師委員会や大阪府看護連盟青年部への参加、また呼吸療法サポートチーム（RST）のメンバーとしての活動、看護学生・既卒者対象の病院説明会への参加などを行ってきました。そして、昨年より男性看護師会が院内の委員会として活動を開始し、院内での勉強会の企画や他院の男性看護師との交流をはじめとした地域連携を今後更に発展させたいと思います。大阪府看護協会の中でも支部単位での男性看護師の地域交流が各施設より要望として出ており、それに先駆けて当委員会がその一歩を踏み出したいと思っています。

現在は企画の段階ではありますが、大阪医科大学附属病院看護部の中で、男性看護師として『リーダーシップの発揮』を目標に、活動の場を増やせるよう盛り立てていきたいと思っています。持ち前の「やさしさ」「力強さ」を全面に出しながら、看護部内ではもちろんのこと、医師・コメディカルとの連携を強化し、活動していきたいと思っていますので、何かご要望がありましたらいつでもご連絡ください。発足から日も浅く、ご協力を頂くこともあるかと思いますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

■“6年制薬剤師”第一期生の誕生

薬剤部 西原 雅美

学校教育法及び薬剤師法が一部改正され、薬学教育6年制がスタートしてから6年が経過しました。いよいよ平成24年は新制度における初の国家試験を経て、“6年制薬剤師”第一期卒業生たちが世に出る年となりました。

6年間の薬学教育カリキュラムでは、医療人としての使命感と能力をもった薬剤師を養成するため、従来の基礎薬学中心の教育に加え、臨床教育の充実とそれを支える医療薬学教育が拡充されました。5年次に、体験型長期実務実習（11週間×2（薬局及び病院））が必須化され、これまで本院でも複数の大学から毎年、20名を超える実務実習生を受け入れ、指導を行ってきました。実際の患者さまや多職種のスタッフと向き合い、薬物療法の説明や処方提案の難しさを体験する機会は、多くの学生にとって今後のモチベーションを高める機会になっています。しかし、日々進歩し、多様化する薬物療法に薬剤師が専門家として責任をもつためには、薬剤師教育を更に改革する必要があります。既に、現在適用されているコア・カリキュラムの見直しが文部科学省主導で開始されており、臨床実習も含めて、今後、大幅に改訂を加える必要があるとされています。

医療を取り巻く環境は刻々と変化を遂げており、チーム医療における薬剤師の存在が大きく問われています。平成24年度の診療報酬改定では、薬剤師が病棟において薬物療法の質の向上に資する薬剤関連業務を実施することに対し、評価されることになりました。このような中、即戦力を期待される“6年制薬剤師”ですが、その潜在能力が発揮され、評価が定まるまでにはまだまだ年月がかかります。我々既卒薬剤師も含め、薬剤師に何が求められ、何をすべきか、何ができるのか、目に見える形で実践を続けたいと思っています。本学教職員の皆様方には、今後も継続して卒前・卒後の薬剤師教育にご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

医学会秋季学術講演会 学内行事

平成23年度 医学会秋季学術講演会

日時： 平成23年11月9日（水） 16時～17時20分
場所： 臨床第一講堂

〔特別講演〕



『統計ソフトRによる事例の解析
ーロジスティック回帰分析を中心にしてー』
医学部医学科総合教育講座数学教室
専門教授 西村 保一郎 先生

〔特別講演〕



『前立腺癌に対する放射線治療の最新事情』
医学部医学科総合医学講座放射線医学教室
専門教授 猪俣 泰典 先生



学長室にて
前列左から：
西村専門教授、
猪俣専門教授
後列左から：
玉井教授、朝日教授、
大道教授

平成23年度 大阪医科大学附属病院連携病院長会総会



平成23年11月17日（木） 15：00～16：45
ホテルグランヴィア大阪20階「鳳凰」の間

『精神科救急の現状と課題』

大阪医科大学附属病院
精神神経科 科長 米田 博 先生

平成23年11月17日、連携病院から77名、院内から32名の先生方にご参加いただき、連携病院長会総会を開催いたしました。

木下 光雄 病院長のご挨拶につづき、役員会報告、新任科長紹介（泌尿器科 東 治人先生、消化器外科 内山 和久先生、歯科口腔外科 植野 高章先生）があり、総合内科 科長 浮村 聡先生、整形外科 常徳剛先生から被災地での活動が報告されました。

特別講演の精神神経科 科長 米田 博先生からは「精神科救急の現状と課題」と題し、精神科医療の変化や、精神科救急の医療体制、自殺・自傷に至るまでをわかりやすくご講演いただきました。また引き続き開催された懇親会では、各々の医療機関の近況報告から医師派遣等のお話で賑わい、盛況のうちに会を終了しました。

平成23年度 消防避難訓練実施



平成23年10月19日(水)、26日(水)13時30分から、61病棟(参加者15名)、NICU・ベビールーム(参加者20名)において、それぞれ消防避難訓練が実施され、責任番を中心に全員が落ち着いて行動し、連絡通報、避難誘導が行われました。

平成23年度 防災訓練

平成23年11月30日(水)に、高槻周辺で震度6の地震発生を想定した防災訓練を実施しました。

55病棟を中心に避難病棟とし、災害対策本部立上げから、通報連絡、避難誘導、救出活動の各訓練を行ないました。約80名の多職種の職員が参加し、各自の担当業務について一人一人が役割を再認識することが出来ました。



保育室避難訓練実施

平成23年11月10日(木)、炊事場での出火を想定した避難訓練が実施されました。今回の訓練は保育室では初めて行われたものです。ヘルメットを被った応援職員の姿や普段とは違う雰囲気、保育士さんたちにつれられて避難する子どもたちの中には泣き出してしまう子もいました。最後に保育士さんたちの消火器取扱訓練が行われ、初めての訓練は無事に終了しました。



健康科学クリニック主催 「市民健康フォーラム」開催



健康科学クリニック主催の第4回市民健康フォーラムが次のとおり開催されました。

当日は雨模様のなか約340名の市民が参加され、会場は満席となり急遽補助席を用意するなど盛況でした。

日時：平成23年12月3日（土）14：00～
場所：附属看護専門学校・看護学部 講堂
テーマ：「脳健康から体を知ろう」
演題：梶本 宜永 医師

「寝たきり・認知症にならないために
－ピンピン・コロリの最新医学－」

田中 恵美子 臨床検査技師
下橋 ひとみ 診療放射線技師
小林 喜美代 保健師

「いつまでも若さを保つため普段から出来ること
－動脈硬化の早期発見と生活習慣病の改善－」

講演の合間には、インターミッションコンサートとして



芦田正子さんのフルート演奏、その他、高槻市の健診補助制度の説明がありました。

平成23年度 実験動物慰霊祭



日時：平成23年12月3日（土）13：00～
場所：講義実習棟 第1講堂
祭文奉読：実験動物センター長 薬理学教室 朝日教授

平成24年 年賀交歓会



日時：平成24年1月4日（水）13：00～
場所：大学管理棟 第9会議室





クリスマス会

平成23年12月16日（金）17：00～18：00

第6回クリスマス会が学生自治会主催で開催されました。今年は、3年生一クラスでの実施となりますので従来より規模を縮小し、名称もクリスマスコンサートからクリスマス会へと変更して行いました。

この行事は地域との積極的関わりと学生のボランティア精神を高める目的で、平成18年から毎年実施しています。今年は、金曜日開催ということもあり地域の方々80余名の大人の方々と多くのお子さん達にご参加いただき、講堂は熱気でいっぱいになりました。



学生のダンスや教員によるハンドベルの演奏の後、ミュージカル的な出し物に続いて“きよしこの夜”の合唱、聖夜にまつまられたような雰囲気の中、学生手作りの心ばかりの小さなプレゼントを参加された皆さまにお渡ししました。ハンドベル演奏時には、会場から歌声や歓声が聞こえていました。最後はお子さんたちにステージに上がってもらって学生と一緒に“マル・マル・モリ・モリ！”を楽しく踊りました。これは今年大ヒットしたこともあり、上手に踊るお子さんもいて…客席はほっこり笑みが浮かんでいました。

帰り際にはサンタとトナカイに扮した学生の大奮闘に、小さなお子さんたちからの握手と記念撮影となり、楽しい賑やかなひとときを持つことができました。

玄関ホールに飾られた高さ3mのクリスマスツリーや北側の吹き抜けガラスに飾られた可愛い装飾品、エントランスホールのイルミネーションetcが看護専門学校最後のクリスマス会を引き立てていました。

寒い中ご参加いただいた方々に感謝いたします。ありがとうございました。



☞看護専門学校は、平成24年3月31日をもちまして閉校いたします。

平成23年度 市民公開講座

■第5回

平成23年11月19日（土）14時～ 臨床第一講堂

『“肺がんなんてこわくない”』

肺がんの外科治療について』

胸部外科学 講師（呼吸器外科 科長）花岡 伸治

『分子標的薬って何？』

附属病院薬剤部 浦嶋 和也

『肺がん手術後に日常生活で気を付けたいこと』

附属病院 がん看護専門看護師 上田 育子



■第6回

平成23年12月17日（土）14時～ 臨床第一講堂

『前立腺がんの放射線治療』

放射線医学 専門教授 猪俣 泰典

『前立腺がんの痛みを抑えるお薬との付き合い方』

附属病院薬剤部 後藤 愛美

『前立腺がんの日常生活』

附属病院 緩和ケア認定看護師 長嶺 美奈子



■第7回

平成24年1月21日（土）14時～ 臨床第一講堂

『遺伝のはなしー遺伝子検査でどこまでわかる？ー』

臨床検査医学 講師 宮崎 彩子

『お薬の効く人と効かない人の違い』

附属病院薬剤部 山崎 浩平



※平成24年度の市民公開講座開催予定については、

公式ホームページでご確認頂けます。

URL:<http://www.osaka-med.ac.jp/>



■市内5大学リレー市民講座

～ 安全・安心なまちづくりを考える ～

日 時：23年12月10日（土）12：30～17：00

場 所：高槻市立総合市民交流センター 8階イベントホール

大学名	講師・講演テーマ
大阪医科大学	総合診療科専門教授 感染対策室長 浮村 聡 氏 『感染症から市民を守るために』
京都大学	大学院農学研究科附属農場 准教授 中崎 鉄也 氏 『遺伝子と作物の品種改良-京大ビールのコムギの研究、そして、遺伝子組換え作物の現状-』
平安女学院大学	学長 山岡 景一郎 氏 『試験もしなくて「親の資格」が貰えるの?』
関西大学	社会安全学部 教授 高鳥毛 敏雄 氏 『結核との戦いはこれからが勝負です』
大阪薬科大学	臨床実践薬学教育研究室 教授（特任）長船 芳和 氏 『薬害と薬剤師』



※ <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/kurasu/db4-daigaku.html>

■主な行事日程(平成24年3月～平成24年5月)

3月1日(木)	医学部センター試験利用入学試験 2次試験	24日(土)	看護専門学校閉校記念式典
2日(金)	医学部卒業式 医学部臨時教授会	26日(月)	大学協議会 第101回看護師国家試験合格発表
3日(土)	医学部センター試験利用入学試験 2次試験合格発表	30日(金)	理事会・評議員会
6日(火)	看護学部臨時教授会 看護学部一般入学試験(後期)合格発表	31日(土)	看護専門学校閉校 病院運営会議
7日(水)	第5回歴史資料館市民講座	4月3日(火)	医学部臨時教授会 医学研究科教授会 看護学部臨時教授会
10日(土)	看護学部一般入学試験(後期)合格発表	4日(水)	診療科長会 医学部・看護学部入学式
13日(火)	病院運営会議 看護専門学校卒業式	10日(火)	理事会
14日(水)	医学研究科教授会	11日(水)	看護学部教授会
15日(木)	診療科長会	18日(水)	医学部教授会 臨時医学研究科教授会
19日(月)	医学部一般入学試験(後期)1次試験	21日(土)	平成24年度第1回市民公開講座
21日(水)	理事会	23日(月)	大学協議会
13日(火)	看護学部教授会	27日(金)	医学部白衣授与式
14日(水)	医学部臨時教授会	5月1日(火)	病院運営会議
15日(木)	医学部一般入学試験(後期)1次試験合格発表	2日(水)	医学研究科教授会 診療科長会
19日(月)	医学部一般入学試験(後期)2次試験	8日(火)	理事会
21日(水)	第106回医師国家試験合格発表	9日(水)	看護学部教授会
	医学部教授会	16日(水)	医学部教授会
	臨時医学研究科教授会	19日(土)	平成24年度第2回市民公開講座
	医学部一般入学試験(後期)2次試験合格発表	26日(土)	理事会・評議員会
		28日(月)	大学協議会

寄付金報告

*** ご寄付のお願い ***

大阪医科大学は、大阪医科大学基金および各事業への募金活動を行っています。
皆様方のこれまでのご支援に深謝いたしますとともに、さらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

■ 大阪医科大学基金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は19件、金額は2,840,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は337件、金額は47,909,000円です。

(順不同・敬称略)

ユウキ産業株式会社 医療法人毅峰会吉田病院 ワタキューセイモア株式会社近畿支店

日本システム技術株式会社 医療法人健和会

大熊 實 和田 晃直 森岡 利行 三木 啓資 平井 博 武田 吉弘 武田 啓志

佐藤 芙美 恒川 恵治 池田 正和 磯田 洋三 河内 明 間島 行春 国井 興

※恒常的なご寄付も「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）」で承っております。何卒ご協力賜りますようお願いいたします。

■ 附属病院の整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は7件、金額は1,250,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年12月31日までの寄付金入金件数は72件、金額は13,880,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人大植会 社会医療法人山弘会上山病院 医療法人恒昭会

植木 實 佐野 浩一 打田 耕三 匿名1件

■ 教育環境整備事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は9件、金額は13,700,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、平成23年4月1日から平成23年12月31日までの寄付金入金件数は30件、金額は59,500,000円です。
(順不同・敬称略)

医療法人社団ひまわり会はまもと医院

金 花仙 奥田 謙一 塚原 彰治 匿名5件

■ 別館講堂「机募金」へのご寄付

<寄付金申込者>

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は600,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、平成23年1月1日から平成23年12月31日までの寄付金入金件数は8件、金額は3,900,000円です。
(順不同・敬称略)

國澤 隆雄 神田 克明

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業募金へのご寄付

<寄付金申込者>

平成23年10月1日から平成23年12月31日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は1,850,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年12月31日までの寄付金入金件数は39件、金額は5,483,460円です。
(順不同・敬称略)

医療法人社団医神会神田内科・小児科

國澤 隆雄 段 武夫 竹田 有希 佐野 浩一

■ ご支援をお考えの皆様へ

ご寄付のお手続き方法

1. 大阪医科大学ホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。

- ご郵送先：569-8686
大阪府高槻市大学町2番7号
- FAX:072-681-3723

2. お近くの金融機関より下記口座にお振り込みをお願いします。

口座名義	学校法人大阪医科大学(募金口)
振込先	三井住友銀行 高槻支店
口座番号	普通預金 2161078

3. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

※本学所定の振込用紙をご利用して三井住友銀行の本支店で
お振込みされた場合は、お振込手数料は無料です。振込用紙は
募金推進本部までご請求ください。

寄付金に関する
お問合せ

学校法人大阪医科大学 募金推進本部
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

受付時間／平日9：00～16:30

TEL:072-684-7243(直通) FAX:072-681-3723 E-mail:kikin@art.osaka-med.ac.jp

主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成23年11月～平成24年1月)

【理事会】

[平成23年11月8日]

—審議事項—

1. 平成23年度予備費の使用について
2. 大阪医科大学教授選考規程の一部改正について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 社団法人日本私立医科大学協会、日本私立大学連盟報告
3. 大阪薬科大学との法人合併基本合意書締結について
4. 病院経営改善委員会関係報告について
5. 広報・入試センター報告について
6. 学事関係報告
7. 病院関係報告

[平成23年12月13日]

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 学校法人大阪医科大学アドバイザーの選任について
3. 学校法人大阪医科大学就業規則の一部改正について
4. 大阪医科大学附属病院長予定者選考規程の一部改正について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 臨床治験センターに関する報告について
3. 大阪薬科大学との法人合併について
4. 地域連携センター独立設置について
5. 「倫理心得」について
6. 社団法人日本私立医科大学協会、日本私立大学連盟報告
7. 学事関係報告
8. 病院関係報告
9. その他

[平成24年1月17日]

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学予算規程の一部改正について
2. 学校法人大阪医科大学経理規程の一部改正について

3. 事業継続のための予算超過に対する予算措置について

4. 本学八丁畷土地と大阪府営高槻住宅土地との交換について

5. 教授の選任について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 社団法人日本私立大学連盟関係報告
3. 日本私立医科大学協会理事長会報告
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告

【大学協議会】

[平成23年11月28日]

—協議事項—

1. 看護学部における設置年度から完成年度までの教員選考及び採用について
2. 病院長予定者の選考について
3. 学部長選考規程の策定について
4. 文部科学省補助金(GP)の獲得について

[平成23年12月26日]

—協議事項—

1. 大阪医科大学ホームページのトップ画面について
2. 図書館長の選考について
3. その他

[平成24年1月23日]

—協議事項—

1. 新研究科設置検討について
2. 大阪医科大学ホームページのトップ画面について
3. その他

【大講座主任教授会】

[平成24年1月11日]

—審議事項—

1. 平成24年3月任期満了に伴う任期付教員の再任時審査について

【医学部教授会】

〔平成23年11月16日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 名誉教授資格について
3. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授の選考について
4. 第6学年卒業の可否判定について
5. 平成24年度医学部入学試験の件
6. 病院長選挙について
7. 各種ポリシーについて
8. 利益相反委員長報告
9. 大阪医科大学医学部医学科教育機構規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 倫理委員長報告
6. 広報・入試プロジェクト委員長報告
7. 市民公開講座運営委員長報告

〔平成23年12月7日〕臨時

—審議事項—

1. 第6学年卒業の可否判定について
2. 任期付教員の再任時審査について
3. 今冬の節電について

—報告事項—

1. 学長報告

〔平成23年12月21日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育講座化学・生体分子学教室担当教授の選考について
3. 生体管理再建医学講座整形外科学教室担当教授の選考について
4. 生体管理再建医学講座救急医学教室担当教授の選考について
5. 平成24年3月任期満了に伴う任期付教員の再任時審査について
6. 病院長選挙について
7. 大阪医科大学特別任命教員規程の一部改正に

ついて

8. 大阪医科大学図書館運営委員会規則の一部改正について
9. 図書館長選挙管理委員会委員の選出について
10. 学校法人大阪医科大学鈎奨学基金規程等の一部改正について
11. 各種ポリシーについて
12. 平成23年度学生褒章(学長賞・教育機構長賞)の選定について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 倫理委員長報告
5. その他

〔平成24年1月25日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 生体管理再建医学講座整形外科学教室担当教授の選考について
3. 生体管理再建医学講座救急医学教室担当教授の選考について
4. 病院長選挙について
5. 図書館長選挙について
6. 大阪医科大学特別任命教員規程の一部改正について
7. 特別協力研究員に関する内規の一部改正について
8. 大学安全対策委員会規程の一部改正について
9. 大阪薬科大学学部学生の教育研究指導の委託について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. その他

【医学研究科教授会】

〔平成23年11月2日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院専任教員規程の一部改正(案)について
2. 学外研修許可願について

主要会議報告

3. 神戸大学大学院医学研究科からの研究指導委託及び覚書の締結について

—報告事項—

1. 平和中島財団平成24年度外国人留学生奨学支援への応募について
2. 平成23年度第2回学位論文受付開始について
3. 2012年4月助成「がん研究助成」募集要項について
4. 第5回医療フォーラムーがん医療専門職教育の実践ー
5. 平成23年度下期助成事業募集要項について
6. 日台若手研究者交流事業(科学技術)のご案内
7. 第6回小林がん学術振興会研究助成公募概要について
8. 次年度シラバス作成に向けた担当教員の確認について

[平成23年11月16日]臨時

—審議事項—

1. 平成24年度医学研究科入学試験(10月実施分)及び平成23年度第1回学位論文提出のための語学試験の合否判定について

[平成23年12月7日]

—審議事項—

1. 学外研修許可願について
2. 休学願について
3. 大学院専任教員について
4. 研究費の課題について

—報告事項—

1. 平成24年度文部科学省国内採用による国費外国人留学生(研究留学生)への応募について
2. 第5回医療フォーラムーがん医療専門職教育の実践ーについて
3. その他

[平成23年12月21日]臨時

—審議事項—

1. 平成23年度第2回学位申請受理可否について

[平成24年1月11日]

—審議事項—

1. 大阪薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)における臨床関連実習の実施について

2. 大学院専任教員について

3. 救急医学教室の来年度からの教育・研究体制について

4. その他

—報告事項—

1. 平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進事業について
2. 平成23年度第Ⅱ回学位論文公開審査について
3. 大学院特別講義開催について
4. 平成24年度研究生継続・新規手続について
5. 平成23年度成績評価に係る件
6. 平成24年度教育要項の作成について
7. 平成23年度第Ⅱ回学位記授与式及び平成24年度医学研究科入学宣誓式について
8. その他

【看護学部教授会】

[平成23年11月9日]

—審議事項—

1. 教員人事について
2. 利益相反自己申告の実施について
3. 教員の年間業績の掲載について
4. 学生証用ネームホルダーについて
5. 平成23年度の学部共同研究報告会について
6. 看護学部学生への研究協力依頼について
7. 看護学部履修規程の変更について
8. 2011年度後期試験日程について
9. 平成24年センター試験監督者の選出について
10. 賠償保険について

—報告事項—

1. 大学協議会報告
2. 大学各種委員会等報告
 - 1) 大学安全対策委員会報告
 - 2) 省エネルギー推進委員会報告
3. 各種センター等報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 実習調整委員会報告
 - 5) 国際交流委員会
7. その他
 - 1) 広報に関する年間予定表について
 - 2) 教授会開催予定について
 - 3) 大学病院看護師募集に関する件

〔平成23年11月18日〕

—審議事項—

1. 平成24年度看護学部入学試験に関する件

〔平成23年12月12日〕

—審議事項—

1. 人事について

〔平成23年12月14日〕

—審議事項—

1. 学生と教員との懇談会について
2. 受験者募集プロジェクトチーム選出について
3. 看護学部年報の発刊について
4. 保健師国家試験受験資格希望者の選抜要件について
5. 履修のてびきの変更について
6. 看護学部以外からの実習室および実習室関連物品貸出しについての手続きについて
7. 2011年度後期試験日程について
8. 看護学部教育センターのあり方について
9. 看護学部学生への研究協力依頼について
10. 基礎看護学実習Ⅱの指導体制について

—報告事項—

1. 看護学部備品購入及び設置工程表(案)について
2. CNS教育課程準備委員会報告について
3. 看護学部推薦入学試験経過報告について
4. 今後の入試の監督者・面接委員の予定について
5. 倫理審査申請に係る受付方法の変更について
6. 看護師募集プロジェクト委員会(大学病院)について
7. 大学協議会報告
8. 大学各種委員会等報告
 - 1)省エネルギー推進委員会報告
 - 2)大学経営対策委員会報告
9. 各種センター等報告
 - 1)学生生活支援センター報告
 - 2)教育センター報告
 - 3)看護実践研究センター報告
 - 4)実習調整委員会報告
 - 5)国際交流委員会報告
10. その他
 - 1)学生証用ネームホルダーについて
 - 2)図書館長の選挙について
 - 3)看護学部「広報委員会」の名称変更について

〔平成24年1月11日〕

—審議事項—

1. 看護学部年報(案)について
2. 看護学部教育センター規程について
3. 看護学部学生生活支援センター規程の変更について
4. 看護実践研究センター規程の変更について
5. 3センター長の選出について
6. 看護学部設置経費について
7. 看護学部委員会の見直しについて
8. 自己点検自己評価報告書について
9. 看護学部研究協力依頼に対する対応について
10. 平成24年度 新入生学外合宿の引率について
11. 教育センターの教務予算について

—報告事項—

1. 学生と教員との懇談会について
2. 看護学部保護者説明会の日程について
3. 受験者募集プロジェクトチーム委員の決定について
4. 大学協議会報告
5. 各種センター等報告
 - 1)学生生活支援センター報告
 - 2)教育センター報告
 - 3)看護実践研究センター報告
 - 4)実習調整委員会報告
 - 5)国際交流委員会報告

〔平成24年1月27日〕

—審議事項—

1. 平成24年度看護学部入学試験に関する件

—報告事項—

1. 受験者募集プロジェクトチーム委員委嘱について



褥瘡対策室

■褥瘡対策室より

褥瘡は単なる皮膚の潰瘍ではなく、基礎疾患や栄養状態を反映する重要な全身疾患のひとつです。従ってその対策は医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、事務職員など病院の全スタッフが一丸となって取り組むべき課題であり、病院評価を示す指標にもつながります。褥瘡対策室では平成23年度も昨年度と同様に年4回シリーズで褥瘡の院内研修会を開催させていただきました。この研修会により、褥瘡の発生機序、予防法、栄養管理、重症度評価、治療法などに対する職員の皆様の理解が一層深まり、今後の院内における褥瘡予防、患者ケアに役立つことを期待しています。 (室長 森脇 真一)

…第10回褥瘡対策室院内研修会…

日時：平成23年10月4日（火）午後5時～午後6時
場所：臨床第一講堂
演者：皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智代
皮膚・排泄ケア認定看護師 河口 美幸
内容：1. 褥瘡発生の予防、予測（アセスメントに基づく看護ケアの選択）
2. 体圧分散寝具の選択について



…第11回褥瘡対策室院内研修…

日時：平成23年10月25日（火）午後5時～午後6時
場所：臨床第一講堂
演者：皮膚・排泄ケア認定看護師 河口 美幸
皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智代
栄養部栄養課 山神まり子
リハビリテーション科 理学療法士 高山 竜二
内容：褥瘡ケアの基本
1) 体圧分散
2) スキンケア
3) 褥瘡ケアにおける栄養管理について
4) 褥瘡発生予防の技術



…第12回褥瘡対策室院内研修…

日時：平成23年11月22日（火）午後5時～午後6時
場所：臨床第一講堂
演者：皮膚科 講師 黒川 晃夫
皮膚・排泄ケア認定看護師 河口 美幸
病院薬剤部 主事 樋口 紗織
内容：褥瘡ケアの基本
1) 褥瘡の知識の整理と褥瘡経過評価、DESIGN-R
2) 褥瘡の局所管理、ドレッシング
3) 褥瘡治療に使用されるお薬



…第13回褥瘡対策室院内研修…

日時：平成23年12月20日（火）午後5時～午後6時
場所：臨床第一講堂
演者：皮膚・排泄ケア認定看護師 池 智代
形成外科 助教 大谷 一弘
内容：1. 褥瘡対策に関する変更について
2. 病期に応じた褥瘡ケアの実際（症例）



■第1回関西医科大学と本学の合同ワークショップを開催

淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの研修の一環として、本学のメディカルトレーニングクラブと関西医科大学の一部の有志学生による合同ワークショップ『シミュレーション教育と臨床体験実習』を平成23年11月12日(土)に開催し、本学から25名、関西医科大学から8名の参加者がありました。また、他大学と本学ライフサポートクラブから8名がこの研修を見学されました。

本学のクラブ員は毎週火・木・金曜日の午後5時からクラブ活動としてシミュレーターによる学習で医療技術の修得を重ねています。今回は本学学生を中心にシミュレーターによる採血、聴診、心電図測定、縫合、結紮、腰椎穿刺、エコーガイド下穿刺等の研修が行なわれました。本学クラブ員はクラブ活動で取得した技量を生かして、参加した学生に教えることができ、研修として大きな成果を得ることが出来ました。今後は合同ワークショップを継続することで相互研鑽によるスキルアップに繋がるようバックアップしていきます。

医学生合同ワークショップの様子



大阪医科大学・関西医科大学 連携事業
淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム

第1回 医学部生合同ワークショップ

シミュレーション教育 & 臨床技能実習体験

日 時:平成23年 **11月12日(土)**
午前10時～午後12時30分

場 所:大阪医科大学メディカルトレーニングサポートセンター
対象者:医学部生、看護学生(定員40名)、指導者の見学歓迎
申し込み:大阪医科大学;メディカルトレーニングクラブ

主 持:清水秀浩(5回生)
関西医科大学;学部事務部学務課
発起人有志:川口雄亮(4回生)

集合場所:大阪医科大学附属病院正面玄関ホール内

実習内容

- 採血、ルンパール
- 聴診(イチロー、ラング)
- 心電図測定(フィジコ)
- 縫合と結紮
- エコーガイド下穿刺



主催:大阪医科大学キャリア形成支援センター
072-684-7208(内線3295) e-mail: career@art.osaka-med.ac.jp
共催:大阪医科大学メディカルトレーニングクラブ
大阪医科大学教育センター、関西医科大学医学教育センター

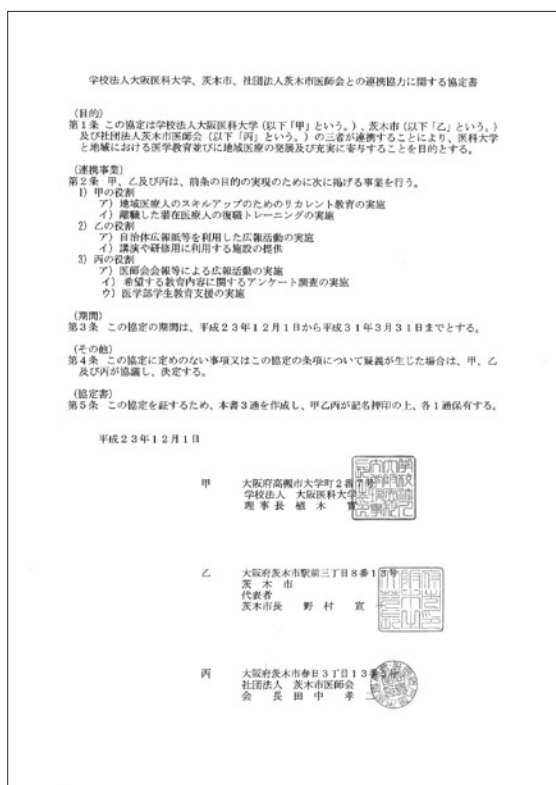


キャリア形成支援センター

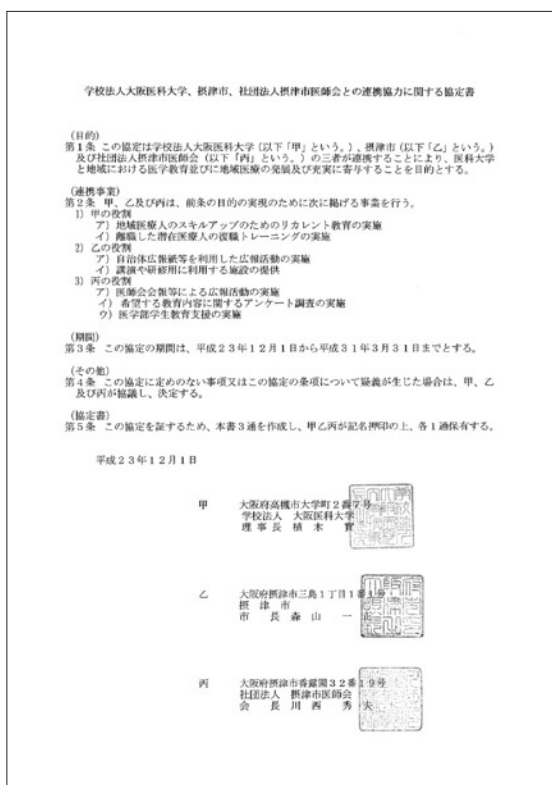
■茨木市・摂津市と両医師会との連携協力に関する協定書を締結しました

淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの活動の一環として本学、関西医科大学、行政と医師会が連携して医療人の育成に取り組んでおり、既に高槻市・枚方市と両医師会では看護師復職支援で成果をあげ、活動が定着しています。

本年度は当初予定より1年前倒して茨木市、摂津市と両医師会との連携を拡大すべく、関連部門と協議を重ね、本事業の最終年度である平成30年3月31日まで間、女性医師、看護師の復職支援や医師、看護師、コメディカル等の医療人育成で連携するという内容で、平成23年12月1日に協定書を締結しました。締結した内容は、本学が地域医療人のスキルアップのためのリカレント教育と、離職した潜在医療人の復職トレーニングを実施し、行政は自治体の広報誌等による活動の広報や施設の提供、医師会は会報等による広報活動、希望する教育内容に関するアンケート調査や医学部学生教育支援の実施です。本事業は地域における医学教育並びに地域医療の発展、充実に寄与することを目的としており、今後は淀川を挟んで大阪市内に向けて活動を展開し行く計画です。



本学・茨木市・茨木市医師会協定書



本学・摂津市・摂津市医師会協定書

■近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム出向研修経験者報告会に出席

平成23年12月16日(金)午後6時から、近畿大学医学部附属病院会議室において、このプログラムで双方に出向研修された先生方3名と受入れていただいた腫瘍内科の藤坂保仁先生から出向研修についての報告があり、多数の診療科の責任者や研修対象者が傾聴されました。

まず、近畿大学医学部附属病院整形外科の墳本一郎先生から、本学で学んだこと、研修期間や研修時期等について報告があり、次いで本学から近畿大学医学部附属病院に出向した呼吸器内科吉田修平先生からは研修で役立ったことの報告があり、その後、研修中の呼吸器内科鶴岡健二郎先生からもコメントをいただきました。また、受入れていただいた藤坂先生からは研修に対しての取組み姿勢や課題についてお話いただきました。出向経験された先生方からは、今後研修される方へは研修目的を明確にして研修に望まれるようにアドバイスがありました。

近畿大学総合医学教育研修センター長の岡田満教授から、本プログラムへの登録と出向研修の協力をお願いされました。本年度は各診療科のご協力を得て、出向予定者も含めて累計23名が連携大学間での出向経験されます。



【年度・連携大学別出向研修者数】

連携大学名	20年	21年	22年	23年	合計
大阪医科大学	1	4	1	7	13
関西医科大学	1	3	1	3	8
兵庫医科大学				1	1
近畿大学・医学部				1	1
合計	2	7	2	12	23



体験報告される墳本一郎先生（近畿大学医学部）



プログラム登録と出向研修を要請する岡田満センター長

■2011年度 第2回 医師事務作業補助者講習会

開催日： 平成23年10月22日(土)9:20~17:40
10月23日(日)8:30~16:30
11月26日(土)9:30~17:40
11月27日(日)8:30~16:30
場 所： 大阪医科大学 新講義実習棟 P101
参加者： 87名



宮崎 久義 理事長(熊本医療センター名誉院長)

北は宮城県から南は鹿児島県まで、全国19府県から受講生が参加した。内訳は男性8名女性79名、職種は看護師、診療情報管理士、事務職(医療クラークを含む)と幅広く参加していた。本学で開催されたこともあり、近畿地区の受講者が49%と最も多かったが、本院からの受講者は1名と少なく、少し残念な思いである。

まず最初に、日本医療マネジメント学会(以下「JHM」という。)理事長の宮崎久義先生から開講式の挨拶があり、西日本で最初となる本学での開催の経緯等が紹介された。JHMは会員数が7,000名近くにもなり、非常に闊達な学会で、今回のような講習会をはじめ、幅広く活動している事も紹介された。

平成20年診療報酬改定により「医師事務作業補助体制加算」が新設された。その中で「必ずしも医師が行う必要のない書類作成などの業務を分担し、勤務医師の負担軽減をはかり、診察に専念できる環境を整備する」と謳っている。

JHM主催の「医師事務作業補助者講習会」(以下「講習会」という。)は10月の第1クールと、11月に開催される第2クールとに分かれ、合計4日間(32時間)の非常に密度の濃い講習会である。

講義は多士済々の講師から淀みない雰囲気の中で行なわれ、講義内容としては、「医師事務作業補助者概論」から始まり、「書類作成」、「医学用語」、「医療関連法規」、「医療安全」、「院内感染管理」等となっている。本講習修了者(全課程参加者)には、講習会最終日(11月27日)にJHMより修了証が手渡された。



講習風景



司会・進行 松島 照彦 先生(実践女子大学大学院教授)



講習風景

■産業医科大学病院への医療安全相互ラウンドとサイトビジットについて

感染対策室 室長 浮村 聡

平成23年12月22日北九州市にあります産業医科大学病院に私立医科大学病院の医療安全相互ラウンド感染部門担当サーベヤーとして、当院感染対策室から川西看護師長代理、柴田検査技師とともに参加して参りましたのでご報告申し上げます。産業医科大学病院ではその名の通り産業医の育成がその設立の目的でもあり、特に職員のワクチン接種については非常に優れた体制を構築されており感銘を受けました。一部専任の薬剤師が配置されていないなどの人的配置には苦しい面があり、そこは指摘をさせて頂きましたが、以下に述べますサイトビジット対策として今回初めて大阪医科大学に2病棟に導入した自動洗浄消毒装置のベッドパンウォッシャーが全病棟に配置され、個人防護具の使用が現場で定着しているなど監査するというよりは感染対策について勉強させていただきました。

また平成24年1月19日には私立医科大学協会の行う感染対策のサイトビジットを受審しました。これは私立医大病院における多剤耐性菌のアウトブレイクを契機として多剤耐性菌対策が社会的に注目され、一部の私立医科大学病院における院内感染対策が不十分であることが指摘されたことから、国の要請で全国の私立医科大学病院の感染対策の充実の為に設立された私立医科大学病院感染対策協議会の事業として行われるものです。順天堂大学の堀先生を始め感染対策のプロフェッショナルの先生方5名の訪問ということで緊張の一日となりました。当日は朝9時からヒアリングならびにICUや54病棟、77病棟などの実地ラウンドが実施され、多くの御指摘ならびに暖かいア

ドバイスを受け、非常に勉強になりました。また最後の講評ではおおむね良好な評価を頂き、今回サイトビジットを受けて良かったと実感した次第です。受審に際し御協力を頂きました病院長はじめ各診療科の先生方、病院看護部、病院事務部、病院薬剤部、臨床検査部など附属病院の各部署の方々に深く感謝申し上げます。

ただ細部につきましては、ローカルルールの是正、適正な文章化の必要性、より実際的なマニュアル（フローチャート化）への改訂の必要性など多くの御指導を頂きました。なかでも、当院でもようやく使用推奨を積極的に行い始めた個人防護具（エプロン等）の使用については使用すべき量の1/10、また標準予防策として必須である手指消毒の為に速乾性アルコール製剤使用については使用すべき量の1/4しか使用されていないという厳しい御指摘も受けました。

感染対策室では今回の医療安全相互ラウンドとサイトビジットで得られた貴重な経験を今後の感染対策に生かして行きたいと考えております。今後とも感染対策室をよろしくお願ひ申し上げます。



産業医科大学病院（HPより）



相互ラウンド産業医科大学病院 内視鏡検査室



大学安全対策室 俳句

■大学安全対策室からのお知らせ

大学安全対策室 室長 河野 公一

前号でご案内した「大学安全対策委員会の今後の在り方について」における4つの提言が、平成24年1月に担当理事運営会に諮られ、環境管理小委員会が設置されることとなり、安全管理にかかる未整備な部分に対応するべく検討に入りました。これにより、提言が実行されていくものと確信しています。

薬品管理小委員会は、化学物質等管理取扱手引きに実験廃液に関する項目を追加し、平成23年12月12日、13日にその説明会を開催しました。また、化学物質等管理責任者および保管責任者を選出している教室等の半数を対象に、平成24年1月16日～20日に化学物質等が適正に保管されているかの巡視確認を実施いたしました。その際、関係者の方々には多大なるご協力をいただきました。感謝申し上げます。

大学の安全管理に関する研修会として、平成24年1月に統合講義を実施し、さらに平成24年3月には他学より講師をお招きしての講演を予定しています。

大学安全対策委員会
大学安全対策委員会規程改正
環境管理小委員会を設置
薬品管理小委員会
化学物質等管理取扱手引き更新（実験廃液の取り扱いについて追加）
実験廃液の取り扱いについての説明会開催（平成23年12月12日および13日）
化学物質等保管状況巡視確認
研修等
大学院統合講義「大学安全対策について—実験廃棄物、実験廃液の取り扱い—」を実施（平成24年1月30日）
東京大学・大島義人教授による講演「誰のための安全か」を予定（平成24年3月19日）

*実施した研修会のDVDや安全に関する書籍の貸出をいたしますのでご利用ください。

【連絡先】

大学安全対策室（総合研究棟1階）内線3404、3405

E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp

URL www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

◆大阪医科大学俳句会（十一・十二・一月）

再会のさうかさうかと汁粉屋へ

山崎隆司

初霜や棧橋踏んで旅つゞく

同

寒鯉の浜値や一本米一斗

中川一成

向きあつて別々のこと炬燵かな

同

縄編のセーター似合ふ君なりし

吉田孝江

初山河龍神祀る富士八海

同

ポインセチア注射針から目をそらし

飯塚久子

シクラメン陽ざして揃ふトウシューズ

同

蒲団干す御堂に隣る民家かな

宮脇芳美

朝寒や羽織りし物に糸の屑

同

海の上なんにも置かず初日の出

寺田千代子

城門の錠の古びや鷹渡る

同

凧揚げる空は一面僕のもの

羽根美恵子

枯木立仁王の胸の力紙

谷口文子

木枯やいつも小走り宅配人

同



● イルミネーション点灯式 ●

昨年センター開設10周年を迎え、開設2年目から始まったイルミネーション点灯式も、今年で第10回目を迎えました。ここ数年雨を心配しながらの開催でしたが、今年は前日時点での降水確率がかなり高く、参加申し込みをされていた保護者の方から『雨の場合はどうなりますか?』とのお問い合わせが寄せられるほどでした。

12月2日(金)、朝方は雨が降ったようですが日中は降ることなく、穏やかに本番を迎えることができました。午後4時30分、次々に子どもたちが集まってきて、点灯式が始まりました。

全員での「きよしこのよる」斉唱に続き、恒例の「つるちゃん」によるジャグリング。今年は皿回しに加えて南京玉すだれが出てきました。「これは何でしょう?」との質問に、初めて見た子どもたちからは「のりまきのやつ! (巻き簾)」「夏の窓のやつ! (すだれ)」「お習字の! (筆巻)」といろいろな回答が飛び交いました。



小児ボランティア部の学生さんたちの舞台では、今年大ヒットした「マルマルモリモリ」のダンス。1フレーズごとにみんなで練習した後は、子どもたちも大喜びでステージに上がって大ダンス大会となりました。フルート・ピアノによる「気まぐれコンサート」でも、「マルマルモリモリ」が演奏され、再び子どもたちがかわいいダンスを披露してくれました。

ビンゴ大会では子どもたちがビンゴカードを手に最前列に押しかけ、サンタが出した数字を食い入るように見つめていました。ビンゴが出た子どもはたくさんのプレゼントの中から真剣に選び、大切にかかえて帰りました。

今年は節電要請を受け、スポットライトを減らして点灯時間を短くするなどの対策を行いました。きれいなイルミネーションにあちこちで記念撮影をする姿がみられました。



● 病院ボランティア活動のご紹介 ●

病院ボランティア活動の一環として、2010年7月からグリーンボランティア（園芸ボランティア）が開始されました。



2011年の2月には本館・図書館棟前に《ふれあい花壇》ができあがり、5月には高槻市の「花いっぱい街づくり」事業に参加し、正面玄関東側の市道に面した場所に《フラワーリンク花壇》が完成しました。



ボランティアの方々の日々のお世話により、花がいっぱい咲いた花壇は、患者さまや地域の人達の憩いの空間として喜ばれています。

表紙絵：水仙・寒木瓜（ほけ）の花

この時期絵の題材となる草花選びにはいつも苦労する。露の臺（ふきのとう）、猫柳、節分草、福寿草、片栗の花（かたくり）等初春を代表する草花はまだ見られない。実もの、花もの、葉ものは少ない。

今回、水仙と寒木瓜を選んだ。木瓜の花は晩春のものであるが、冬から春に咲く、寒木瓜がある。品種により花色は多彩だが、紅色（緋）が多い。中国原産で、平安時代に渡来したバラ科の花である。

水仙。別名雪中花といい、冬の花として、幾多の詩に登場する。中国をへて室町時代に渡来したが、地中海が原産である。部屋中に好い香りを漂わせている。

名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。

これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。

なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。

学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代

E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第91号

発行年月 平成24年2月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>